

# 菊地歯車、新工場

## 車用歯車生産 足利で能力増強

【宇都宮】菊地歯車（栃木県足利市、菊地義典社長）は、栃木県足利市に自動車用歯車を生産する新工場を建設する。11月末に完成し、年内に移働する。新工場の稼働により同社の自動車用歯車の生産能力は15%向上する。

【宇都宮】菊地歯車は、中長期的な新規受注の増加を見越し、先行して生産体制を強化する。新工場の本格稼働で、年間の売上高を現状比16%増の35億円まで引き上げたい考え。投資額は2億円で、同社にとり7カ所目の生産拠点となる。新工場は自動車用歯車の生産を担う「第5工場」の隣接地に建てる。敷地面積は1150平方メートルで、工場面積は760平方メートル。操業開始から20年を迎える第5工場は手狭になっており、新工場には第5工場の一部設備を移管するほか、歯切り盤2台などを導入する。従業員も新たに雇用する。自動車用歯車の生産体制を再構築し、将来のニーズに対応する。

同社は今後、市場では自動車や航空機、ロボット向け歯車の開発が増えるとみる。生産体制の強化と並行し、設計や開発、生産管理などに携わる人材の育成にも力を入れる。

菊地歯車は1940年創業の歯車専門メーカー。汎用歯車や精密歯車を得意とし、自動車や油圧・建設機器、航空・宇宙などの分野に供給する。

近年はロボット向け歯車の開発も推進する。栃木県足利市内に本社工場を含めて六つの生産拠点をもち、2021年6月期の売上高は30億円。